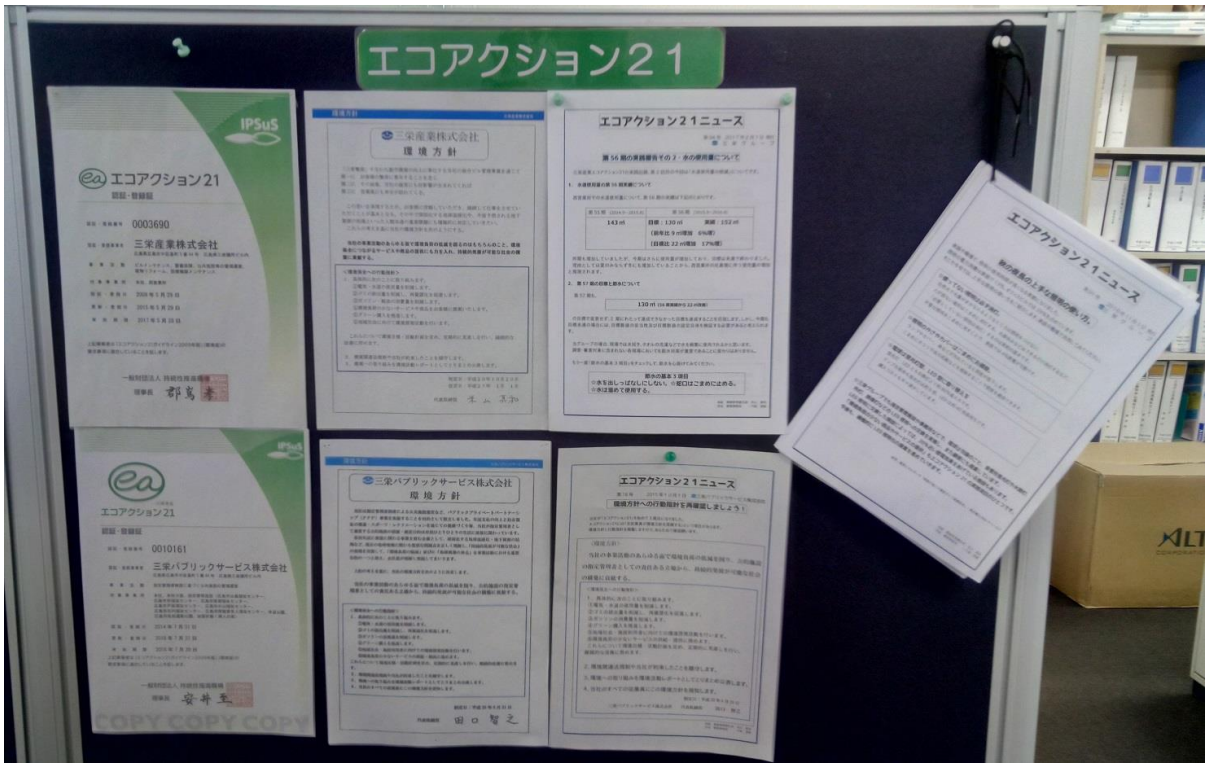
エコアクション２１

環境活動レポート

（期間：第５８期　平成２９（2017）年９月１日

～平成 30（2018）年８月３１日）



（エコアクション 21　告知スペース（西営業所））

平成 31（2019）年 3 月 10 日発行

三栄産業株式会社

１　環境方針

三栄産業株式会社は、次の環境方針に基づき環境保全活動に取り組んでいます。

環 境 方 針　三栄産業株式会社

「三者繁栄」すなわち都市環境の向上に奉仕する当社の総合ビル管理事業を通じて
第一に　お客様の繁栄に寄与することを念じ
第二に　その結果、当社の経営にも好影響が生まれてくれば
第三に　従業員にも幸せが訪れてくる。

この思いを実現するため、お客様に信頼していただき、継続して仕事をさせていただくことが基本となる。その中で深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇といった人類共通の重要課題にも積極的に対応していきたい。
これらの考えを基に当社の環境方針を次のようにする。

当社の事業活動のあらゆる面で環境負荷の低減を図るのはもちろんのこと、環境保全につながるサービスや商品の提供にも力を入れ、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

＜環境保全への行動指針＞
１．具体的に次のことに取り組みます。
①電気・水道の使用量を削減します。
②ゴミの排出量を削減し、再資源化を促進します。
③ガソリン・軽油の消費量を削減します。
④環境負荷の少ないサービスや商品をお客様に提案いたします。
⑤グリーン購入を推進します。
⑥地域社会に向けて環境啓発活動を行います。
これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

２．環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

３．環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：平成２０年１０月２０日
改訂日：平成２７年１月　１日

代表取締役　米山　真和

２　組織の概要

（１）事業者名および代表者氏名

三栄産業 株式会社

代表取締役　米山　真和／小宇羅　元俊

（２）所在地

本社　〒730-0011　広島市中区基町５番４４号(広島商工会議所ビル内)

西営業所　〒733-0035　広島市西区南観音７丁目６番２２号

（３）環境管理関係者の連絡先

環境管理責任者　：　田口　智之（取締役　ビルメンテナンス事業部長）

環境事務局担当　：　今城　透雄（西営業所　ビルメンテナンス事業部）

連絡先　：　TEL:082-232-0533　(http://www.3ei-kk.com/)

（４）主な事業内容

ビルメンテナンス、警備保障、公共施設等の管理運営、建物リフォーム

設備機器メンテナンス

（５）事業の規模

売上高　1,274百万円（第58期・平成30（2018）年8月）

総従業員数　378 人　（平成 30（2018）年 9 月）

床面積　411 ㎡　（平成 30（2018）年 12 月）

（６）対象範囲（認証・登録範囲）

①組織：本社及び西営業所管轄の全組織

②事業活動：上記（4）のとおり。

３　環境目標

項目 【基準】	第 58 期 (H29.9～H30.8)	第 59 期 (H30.9～H31.8)
電力の二酸化炭素排出量の削減 【第 57 期　24,186kg-CO2】 【第 57 期　33,222kWh　】	57 期より△3% 23,460kg-CO_2 32,225kWh	57 期より△3% 23,460kg-CO_2 32,225kWh
ガソリンと軽油使用料の削減 【第 57 期　65,537 kg-CO2】 【第 57 期　ガソリン 23,021ℓ 】 【第 57 期　軽　油 4,607ℓ 】	57 期より△2% 64,226 kg-CO2 22,561ℓ 4,515ℓ	57 期より△2% 64,226 kg-CO2 22,561ℓ 4,515ℓ
自動車燃費の向上 【第 50 期　9.87 km/ℓ】	+30% 12.83 km/ℓ	+30% 12.83 km/ℓ
環境負荷の少ないサービスや商品を提供する	4 件/年	4 件/年
グリーン購入の推進	2 件/年	2 件/年
一般廃棄物の削減 【第 57 期　378kg】	57 期より△15% 321kg	57 期より△15% 321kg
水道使用量の削減 【第 57 期　157 ㎥】	57 期より△8% 144 ㎥	57 期より△8% 144 ㎥
地域社会に向けた環境啓発活動	2 か所/年	2 か所/年

注 1：電気の二酸化炭素排出量は中国電力㈱の平成 22 年度排出係数 0.728 を使用しています。
注 2：化学物質の排出に関しては少量であることから目標を設定せず、適切に管理していることを定期的に確認することとしています。

４　環境目標の実績

第５８期の環境目標達成状況【期間：平成２９（２０１７）年９月～
平成３０（２０１８）年８月】

項　目	目標値	実績	評価
電力の二酸化炭素排出量の削減	23,460kg-CO2 32,225kWh	25,643kg-CO_2 35,224Wh	×
ガソリンと軽油使用量の削減	64,226 kg-CO2 ガソリン 22,561ℓ 軽油 4,515ℓ	65,163 kg-CO2 ガソリン 22,418.6ℓ 軽油 4,997ℓ	×
（参考）CO_2 排出量	87,686kg-CO_2	90,806kg-CO_2	×
自動車の燃費向上	12.83 km/ℓ	12.06 km/ℓ	×

項　目	目標値	実績	評価
環境負荷の少ない商品やサービスを提供する	4 件/年	5 件/年	○
グリーン購入の推進	2 件/年	0 件/年	×
一般廃棄物の削減	321kg	340kg	×
水道使用量の削減	144 ㎥	140 ㎥	○
地域社会に向けた環境啓発活動	2 か所/年	4 か所/年	○

注 1：電気の二酸化炭素排出量は中国電力㈱の平成 22 年度排出係数 0.728 を使用しています。

５　環境活動の取り組み内容と結果の評価および次期への取り組み

取組内容	結果の評価と次期の取り組み内容
電力の二酸化炭素排出量の削減 ・不要照明の消灯 ・クール・ウォームビズ運動 ・外出時のＰＣの電源ＯＦＦ ・冷房２８℃、暖房２０℃	全体的に電灯電力が業務の拡大や人員の増強に伴い増加しており、低圧についても空調機切り替え後の昨期より増えている月もあり、目標には未達。 照明・PC 関係の電灯電力に関してはさらなる削減努力を進めていく必要がある。
ガソリンと軽油使用量の削減 ・アイドリングストップ ・急加速、急停車の防止 ・冷暖房の控え目使用	業務の増加に伴い軽油使用量が昨期より増加しており、ガソリンは若干使用量が減少したものの Co2 排出量は目標に達せず。 ただし昨期よりはトータルでは CO2 排出量を減らすことができたため、このまま継続して実績を積み重ねていく。
自動車の燃費向上 ・アイドリングストップ ・急加速、急停車の防止 ・冷暖房の控え目使用	単月で 10ｋｍ/L を下回る月もあるなど、最終的に目標に大幅に未達。一部車両の状態がよくないため燃費が悪化している面もあるが、かなり厳しい状態。 車両の不具合に留意しつつも、現状ではできる改善を図る。市街地走行や積み荷の増加は業務の増加に伴い今後も変わらない状況と見込まれるため、今後もエコ・ドライブに勤める。
環境負荷の少ない商品やサービスを提供する ・省エネ対応機器（照明等）の取替工事	5 箇所で提案した LED 照明切り替えを受注に結びつけ目標に達する。今後も受注物件での提案を継続して行う。
グリーン購入の推進 ・消耗品は環境に配慮したものに切替える	新規で入れ替えたものはなく目標に未達。定期的に入れ替えている PC 関係備品、平素購入する備品はグリーン購入品ではあるが、新規が見当たらない感がある。

取組内容	結果の評価と次期の取り組み内容
一般廃棄物の削減 ・ミスコピーの防止 ・印刷前確認の励行 ・古紙のリサイクル化 ・4R 活動の推進	目標には未達であったものの、昨期よりは数量は削減されており、また再利用に回したものが増加している。少しずつ削減の効果は出てきていると感じるが、まだまだ不十分。 資源の再利用化は紙類を軸に定着しているので、可燃･不燃ごみについては 4R に留意してさらなる削減を図る。
水道使用量の削減 ・節水呼びかけ	最終的に目標値を達成した。洗濯・洗車等で一定数量を使用するが、今後も継続して節水に取り組みたい。
地域社会に向けた環境啓発活動 ・グリーンカーテンの作成 ・地域で行われる環境保全活動への参加	地域の清掃奉仕活動参加 3 件、グリーンカーテン実施 1 件で目標を達成。

６　代表者による全体の評価と見直し

上記の実践を踏まえ、平成 30（2018）年 12 月 2 日に代表者による全体の評価と見直しを行いました。

※環境経営システムは概ね有効に機能している。
※継続的に進めているが、目標未達が多く、改めて社内への目標の周知徹底を図ること。
※水道使用量については目標値を上方修正すること。
※その他の目標は据え置き、継続して取り組んでいくこと。

７　環境関連法規への違反、訴訟などの有無

適用される主な環境関連法規制
廃棄物処理法・自動車リサイクル法・建築物衛生法・消防法・フロン排出抑制法

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。また、関係機関などからの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

８　第５９期以降の環境目標

上記の実践を踏まえた上で、第 59 期･第 60 期･第 61 期の環境目標を下記のとおり見直しました。

項目 【基準】	第 59 期 (H30.9～H31.8)	第 60 期 (H31.9～H32.8)	第 61 期 (H32.9～H33.8)
電力の二酸化炭素排出量の削減 【第 57 期　24,186kg-CO_2】 【第 57 期　33,222kWh　】	57 期より△3% 23,460kg-CO_2 32,225kWh	57 期より△3% 23,460kg-CO_2 32,225kWh	57 期より△3% 23,460kg-CO_2 32,225kWh
ガソリンと軽油使用料の削減 【第 57 期　65,538 kg-CO_2】 【第 57 期　ガソリン 23,021ℓ 】 【第 57 期　軽　油 4,607ℓ 】	57 期より△2% 64,226 kg-CO2 22,561ℓ 4,515ℓ	57 期より△2% 64,226 kg-CO2 22,561ℓ 4,515ℓ	57 期より△2% 64,226 kg-CO2 22,561ℓ 4,515ℓ
自動車燃費の向上 【第 50 期　9.87 km/ℓ】	+30% 12.83 km/ℓ	+30% 12.83 km/ℓ	+30% 12.83 km/ℓ
環境負荷の少ないサービスや商品を提供する	4 件/年	4 件/年	4 件/年
グリーン購入の推進	2 件/年	2 件/年	2 件/年
一般廃棄物の削減 【第 57 期　379 kg】	57 期より△15% 321kg	57 期より△15% 321kg	57 期より△15% 321kg
水道使用量の削減 【第 57 期　157 ㎥】	57 期より△13% 136 ㎥	57 期より△13% 136 ㎥	57 期より△13% 136 ㎥
地域社会に向けた環境啓発活動	2 か所/年	2 か所/年	2 か所/年

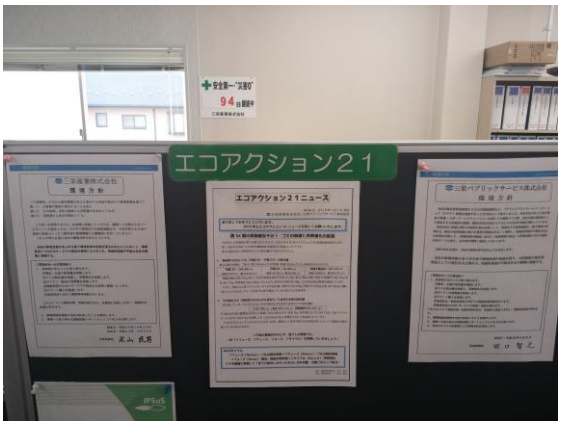
注 1：電気の二酸化炭素排出量は中国電力㈱の平成 22 年度排出係数 0.728 を使用しています。

９　各現場での環境活動

三栄産業をはじめとする三栄グループでは各現場の従業員に一般的な環境に対する自覚を高める教育を定期的に実施し、二酸化炭素、廃棄物、水使用量の削減を意識したサービスの提供を行うのはもちろんのこと、様々な形で環境啓発や環境負荷の低減につながる活動を行なっています。

※従業員に対しての各種教育（清掃研修・接遇講習・あいサポート研修など）の実施

※「エコアクション 21 ニュース」の発行による全従業員への環境啓発



エコアクション２１ニュース

第68号　2014年12月1日 発行
三栄産業株式会社/三栄パブリックサービス株式会社

冬の節電と、そのポイントについて

12月に入り、いよいよ本格的な冬が到来しました。
東日本大震災以降、「節電対策」について報じられることが多くなってきました。この冬は安定供給に必要とされる電力を確保できるかどうかです。これは前電力の定量を問題とした数値でもあり、万一トラブルが発生した場合には安定供給が出来ない綱渡りの数値でもあります。
冬の電力状況の特徴として次のことが挙げられます。

※夏季は14時頃が電力需要のピークなのに対し朝・夕を中心に長時間ピークが続く。
（家庭では7又から夜にかけて、事業者では10時ごろ又は夕方にかけてピークタイムとなる）
※夜の電力需要が夏季のように下がらず、昼夜の差が小さい。

また、家庭、ならびにオフィスビルの冬のピーク時の各員別の電力消費の割合については、次のデータが出ています。

※家庭のピーク時において、エアコンを使う家庭では、エアコン30%・暖明13%・冷蔵庫11%・テレビ6%等　で、エアコン・暖明・冷蔵庫で半分以上をしめる。
※オフィスビルでは、暖明33%・エアコン28%・OA機器（パソコン等）21%で、この3機器のみで82%もの電力消費をしめる。

家庭・職場共通では空調と照明の調整、家庭では冷蔵庫などの家電製品の調整、職場では OA 機器の調整がそれぞれ肝心であることがわかります。
下記に家庭、職場での節電ポイントを簡単にまとめてみました。前号のウォーム・ビズとあわせ、参考にしてみてください。節約やコストの節約にもつながります。

家庭では・・・
☆エアコン家庭を1度下げて7%、厚手のカーテンで1%の電力消費量の節電効果があります。
☆不要な照明をこまめに消して4%節電できます。
☆冷蔵庫は常にいっぱいのものを詰めないように1%節電効果が期待できます。
☆テレビは省エネモードなどで高温の照度を下げ、見ない時は消したら2%の節電効果があります。

職場では・・・・
☆使用していないパソコン類は電源オフ3%の節電効果が期待できます。照明まわりの調整も効果的。
☆空調温度を1度下げ、適切な温度管理で3～4%ほど。また、プライベート等の職場を過ぎないように7%ほどの節電効果が期待できます。
☆PC の電源は使わない時は切るかスタンバイモードに。2%ほどの節電効果があります。
☆照明みなどは（必要な分だけ）室内の完全消灯を。

参照：経済産業省「2014年度冬季の節電メニュー」（http://www.meti.go.jp/setsuden/index.html）など

本社　環境管理課代表　内山　真弓
内山　真弓事務局　　千場　直樹

※エコカーテン設置

※エコ・スタック作成

※ゴミの分別の徹底、再資源化の促進